

《グローバル・メディア研究科主催講演会報告》

2024年6月22日開催

最上敏樹『国際法以後』出版記念講演会について

日本の国際法学界において数多くの重要な研究を発表し、国際的にも活躍されてきた最上敏樹先生（バーゼル大学客員教授、国際基督教大学名誉教授、早稲田大学名誉教授）が、2024年1月に『国際法以後』（みすず書房）を出版されたことを記念し、講演会を開催しました。本後援会は、最上敏樹『国際法以後』出版記念講演会実行委員会、科研費基盤研究（A）「グローバル立憲主義に基づくグローバル秩序構想の探求と制度論の構築」研究会と共催で、最上先生のご講演に加え、3人のコメンテーターの方のコメント、フロアとのディスカッションを行いました。

『国際法以後』は、狭い意味での国際法の分野にとどまらない、学際的、領域横断的な視座から「国際法の〈後〉」に來るべきもの」（みすず書房ウェブサイトより）について意欲的な議論を展開しています。本研究科は、学際融合的な研究をグローバルな規模で展開すること、そしてそうした活動に携わる人材を育成することを目指しており、その意味で、最上先生の新著から様々な立場の方々が学ぶ機会を提供することは、大変光栄なことでした。

当日は、駒沢キャンパス種月館（3号館）3-207教場を会場に、対面、オンラインを含めて100名以上の参加者があり、国際法の過去、現在、未来について自由闊達に意見が交わされました。深沢キャンパス洋館大ホールでの懇親会は、引き続いて親睦を深め、議論を交わす機会となりました。

最後に、最上先生をはじめとする登壇者のみなさん、参加者のみなさんに心から感謝の意を表します。

グローバル・メディア研究科 研究科委員長

芝崎厚士